

いよいよ枝の主日となり、今年ことしの四旬節しじゆんせつの最後さいごの週しゅうが始まりました。毎年まいねん、変わらずか過ごすす四旬節しじゆんせつですが、今年ことしはいつもと少し違ちがった四旬節しじゆんせつでした。何日間なんにちかんか教会きょうかいから離はなれたり、三回目みかいめのワクチンワクチンの副反応ふくはんのうで辛つらかったりしたこともありました。また、時ときには自分じぶんの感情かんじょうのコントロールをきちんとせず、そのまま感情かんじょうをあらわにして、他人たにんを傷きずつけたこともありました。それらを振り返ふってみると、人間にんげんは自分じぶんの居場所いばしょを大切たいせつにしながらも、その居場所いばしょが自分じぶんによって天国てんごくにも地獄じごくにもなるかもしれないことを、あまり気付きづかないまま生きていいるのでは、という気きがしました。今日きょうから始はじまる今年ことしの聖せいなる一週間いっしゅうかんを、少しすこでも真剣しんけんに過すぎして、イエス様イエスさまの復活ふっかつをもっと嬉うれしく迎むかえたいと思おもいます。

枝の主日えだ しゆじつと言われる今日きょうは、主しゆの受難じゆなんの主日しゆじつとも言われ、この一週間しゅうかんの出来事できごとをまとめて記念きねんします。つまり、イスラエルの民全体たみぜんたいがどのようにイエス様イエスさまを喜よろこんで迎むかえ入れたのかということと、その人ひとたちがどうしてイエス様イエスさまを十字架じゅうじかじょう上の死しに追おい詰つめたのかということです。ということで、今日きょうはミサミサの初はじめに「エルサレム入城にゅうじょうの福音ふくいん」を聞き、ミサ中ちゅうには「主しゆイエス・キリストの受難じゆなん」という福音ふくいんを聞ききました。特に「主しゆイエス・キリストの受難じゆなん」という福音ふくいんは何人なんにんかの奉仕者ほうししゃと、また、ある箇所かしょは信者しんじやの皆みなさんと共ともに読よみます。それは、わたしたち皆みなが、イエス様イエスさまの十字架じゅうじかじょう処刑せきにんに責任せきにんがあることを示しめすためでしょう。その著いちじるしく対照たいしょうされる二つの福音ふた ふくいんから、わたしたちはその昔むかしのイスラエルのある歴史れきしと出会であい、その歴史れきしが今いまの時代じだいの私わたしたちの中なかでも繰く返かえされているのが分わかります。それは、神様かみさまの代わりかに王おうを要よう求きゅうしたことで、イスラエルは自分じぶんたちも王おうを持つほかの国くにのようになることを神様かみさまに要よう求きゅうしたわけわけです。こうして、王政時代おうせいじだいが始はじまり、イスラエルはあらゆる罪つみを犯おかしながら、その結果けっかとして様々さまざまな苦くるしみを味あじわわねばなりませんでした。同じく今日きょうの第一福音だいいちふくいんは、イエス様イエスさまを自分じぶんたちの王おうとして迎むかえ入れたことを表あらわし、第二福音だいにふくいんは、その数日すうじつご後おな、同じ人おなたちがローマの皇帝こうていという世よの中なかの人間にんげんを自分じぶんたちの統治者とうちしゃとし

て認め^{みと}たことを示^{しめ}しているのです。ご自分^{じぶん}を遠^{とお}ざけた人間^{にんげん}の救^{すく}いのために、自ら^{みづか}人^{にん}とな^こって来^こられたのに、人間^{にんげん}はその方^{かた}を拒^{こぼ}み、世^よの中^{なか}の愚^{おろ}かな道^{みち}を選^{えら}んだのは、何^{なん}と憐^{あわ}れなことでしょう。でも、わたしたちもそのようにしているかもしれません。世^よの中^{なか}の物事^{ものごと}に囚^{とら}われて、自分^{じぶん}がどこへ向^むかって、どんな道^{みち}を歩^{あゆ}んでいるのかに気^きづかないまま生^いきているかもしれません。そして、その道^{どうちゆう}中で、自分^{じぶん}の隣人^{りんじん}とな^こってくださったイエス様^{さま}を、思^{おも}いや言葉^{ことば}、行^{おこな}いによって、何^{なん}度も殺^{ころ}しているかもしれません。

今日の福音^{きょうのふくいん}で、新^{あたら}しい枝^{えだ}を持^もってイエス様^{さま}を迎^{むか}えた人^{ひと}たちは、枯^かれた十字架^{じゆうじか}の木^きにイエス様^{さま}を釘^{くぎつ}付けにしました。わたしたちも今日^{きょう}、新^{あたら}しいソテツ^{えだ}の枝^てを手^てにしましたが、数日^{すうじつご}後^かそれは枯^かれてしまいます。わたしたちの神様^{かみさま}への信^{しんこう}仰^あいと希^{きぼう}望^あいと愛^{あい}、また、隣人^{りんじん}への愛^{あい}もそのようなものです。ですから、常^{つね}に神様^{かみさま}と隣人^{りんじん}に心^{こころ}をとめ、そこ^{はな}から離^きれないように気^きを遣^{つか}うべきです。そこ^{はな}がわたしたちの居場所^{いばしよ}で、そのような心^{こころ}と愛^{あい}によってその居場所^{いばしよ}は天国^{てんごく}になるはず^{はず}です。今日^{きょう}からの聖^{せい}週^{しゅう}間^{かん}を過^すごしながら、信者^{しんじや}の皆^{みな}さんがイエス様^{さま}の受難^{じゆなん}に深^{ふか}く与^{あずか}り、その復^{ふっかつ}活^{よるこ}を喜^なびの中^{なか}で迎^{むか}えることができるよう、お祈^{いの}りいたします。